

「私」から「私たち」へ

「言葉を変えると人生が変われる」と言われるくらい、私たちの言葉は発している本人とその言葉を聞く人に対して、思っている以上の影響をもたらしています。言葉は本人すら気づいていない内面の状態を表し、他者に伝わっています。今回は主体について考えてみたいと思います。

普段あなたは組織やかかわる人に対してどんな主語を使って話していますか？ もし、あなたが「私は〇〇だと考える」の「私は」を使った言葉を繰り返し聞いたらどのような気持ちになるでしょうか？ もちろん、敢えてこの言葉を使う場合もあると思いますが、意識せずに使っていたとしたら「発言者と自分たちとは違う存在だ」という感覚をもたらすかもしれませんし、ケースによっては心理的な隔たりを感じるかもしれません。これに対し、うまくいっている組織では「私たちは」という言葉が多く使われていると言われています。

これは何を意味しているのでしょうか？ 「私たち」には「私」という立場だけでなく、チームや組織といったかかわる対象者と一緒の立場から発することを示しています。「私たちは」は「私」も「かかわる人」も包含しています。それは「私」が「他者を〇〇させる」といった強制的なニュアンスや、「他の〇〇さんが」してくれるという他者依存でもなく、自分の立場を守るものでもない、一緒に創り出す姿勢と言えるのかもしれませんが、それでは、「私たち」とはどのエリアを表すのでしょうか？ パートナー、チームなど状況によって目の前の対象は変化することもあるでしょう。目の前の対象は状況によって変化するかもしれませんが、かかわる範囲を家族やパートナーとするのか、

チームとするのか、組織全体、会社、取引先、地域、社会全体といったようにどこまでを想定するのかによって、最適化のエリアも変化することがあります。

部分最適と全体最適という言葉があります。「チームの最適化が図れればいい」と考えるとうまくいっているけれど、チームを包含するより大きいエリアで見るときには違う結果を生むことがあります。

どんな概念を持つかは一人ひとりに任せられています。「私」という自分自身が、かかわる人や、その人や物・サービスを通して影響をもたらす人々と、「私たち」として協働しているのかも、その概念にかかっているのです。

●公開セミナー・イベント案内

- ・12/18(土)ブラッシュアップセミナー：「最適な目標設定」お申込み受付中
- ・組織開発・コーチング・リーダーシップコミュニケーション等トレーニングのご相談はHPからお問い合わせください。
- ・新月にかけて無料メールマガジン配信中。

 リーダーの想いを「私たち」にし、一人ひとりの意欲を燃発する
Clarity Mind
www.clarity-mind.com

代表 鮎川詢裕子
エグゼクティブコーチ マインドトレーナー



商社にて長年経営層の傍らで経理・経営企画・IR・秘書業務に従事後独立。人と組織が意欲を持ってミッションや目的を実現していくのをサポートしている。

info@clarity-mind.com
www.clarity-mind.com

クラリティマインド